

概要報告

実施期日	7月29日(火)【午前】
部会名	小学校 家庭部会

テーマ 『 家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度の育成を目指して 』

提案概要

「工夫しよう さわやかな生活」では、暑い夏を健康でさわやかに生活するにはどのようにすればよいかということを考え、風通しや日差しを遮ることの有効性、うちわや打ち水などの昔から伝わる工夫を学んだ。また、衣服の着方や手入れの仕方を知り、衣服を調節することで涼しさを感じることができるとも学んできた。寒い季節を迎え、子どもたちが登校時のまま室内でも防寒着などを着用していたり、肌着を付けないでトレーナー1枚で過ごしていたりする姿を見かけることがある。そこで本題材では、これまであまり意識せずに過ごしてきた冬の自分の家庭生活に関心を持ち、改めて問題点を見つけていきたい。そして、課題意識を持って調べることで、重ね着や保湿性の高い着方をするなど、普段の生活で体感したり無意識に行ってきたりしたことに意味があることに気付かせたい。また、それは環境保全にもつながるのだということ子どもたちに気付かせ、さらに自分の生活の工夫改善に取り組めるようにしていきたい。

質疑概要

- Q. 無意識を意識付けする授業内容で素晴らしかった。本時の実験をする前に子どもたち自身の着方を意識させることが大事だと思うが、特に意識させたか。
- A. 題材の導入で「どんな服を着てる？」と、問いかける形で行った。意識させることに多くの時間を割いてはいない。
- Q. 実験の重ね着について、他の組み合わせで実験したいという声はなかったか。
- A. 事前にいろいろな組み合わせを試してみたが、注目させるものを絞らなかつたので今回はTシャツ+トレーナーのみにした。
- Q. よくできたワークシートだと感心した。オリジナルで作ったのか。また、内容が多いが時間内に書ききれたか。
- A. 子どもの思考の過程が1枚で見渡せるものを作りたかった。指導主事から助言を得、オリジナルで作成した。本時は結果を書き込むところからだったが、時間内に終わらない子どももいたので次時に10分ほど時間を設けた。
- Q. 理論を体験させる形で、分かりやすさをもとに知識の高まりを目指したと思うが、最初の段階から子どもたちの言語活動の質の違いが見られたと感じるか。
- A. 今回の授業を一つ取り上げて、言語活動の質の違いを見ることは困難であると思う。日頃から言語活動を活発にできるような学級を目指している。家庭科では教えなければならないことが多く、講義中心になってしまう。そのため、「全員がつぶやく」シーンを増やすなど、コミュニケーションを取りやすい環境作りをしている。
- Q. この授業のよさは無意識を意識に変えることだと思う。児童の立てた予想が、本当にそうだったと発見をした様子がDVDで見て取れ、授業提案方法として分かりやすくよかった。提案者が日頃から言葉を大事にしていることが伝わってきた。協議の柱についてだが、言語活動が目的になっているように感じられるがいかがか。
- A. もちろん言語活動が目的ではない。テーマにある通り「生活をよりよくする実践的な態度の育成を目指して」いて、それを達成するための方法として言語活動があると考えている。
- Q. 家庭環境がさまざまな子どもたちに、同じ課題を解決させていかなければならないので、家庭科の難しさを日々感じている。今回の着方については、保健衛生上の観点と活動場面に応じた観点を両方で見えていく必要がある。ワークシート最後の絵を描く場面で、場面についての条件設定はしたのか。
- A. ちょうど大雪が降った日の数日後だったので、寒い日＝大雪の日という暗黙の了解のもとに授業をした。しっかりと条件設定をしなかつたので今後の参考にしたい。
- さまざまな家庭環境の子どもがいるので配慮が必要な教科である。実践に移しやすい教科でもある。今回の提案は、人をペットボトルに見立てるところが画期的で、とても面白い体験学習だったと思う。水と人間は違うので、80度でよいのではないかと思う。
- Q. 考えの深まりがあつてよかった。実生活に生かそうとしていることが分かり、家庭科として意義のある授業だと感じた。子どもたちが一斉につぶやくシーンがあつたが、いつまでも話して収集がつかなくなるのではないか。黙るタイミングといつ

たルールはあるか。

- A. 発言する児童の片寄りを解消したいと思い、今のような形式をとっている。ルールは「先生に向かってお話して。」である。友達同士で話すのではないので、全員が言い終わるまで相槌を打ちながら一通り聞く。子どもたちは一度つぶやいているので、指名しても気軽に発言することができるようだ。

研究協議概要

【言語活動の充実について】

- ・言語活動そのものが目的にならないよう気をつけなければいけない。
- ・授業の中でだけでなく、普段の生活の中で取り組むものではないか。
- ・教師一人ひとりが達成しようと思っても限界があるので、学校全体で取り組むと児童に浸透しやすいのではないか。
- ・授業の中で取り入れる場合は、言語活動がどこで必要か、教師がしっかりと考えを持つことが大切だ。
- ・言語活動で私たち教師が育てたいものは、言葉を使って相手の気持ちを考える子どもたちである。子どもの心を育てることが目的である。
- ・言語活動によって、子どもたちの持っている価値観を交換することができる。言語活動を使うことによって実践力が高まっていく。家庭相互の考え方の違いを否定し合わないことも注意が必要。
- ・「先生だから話したい」という、先生対子どもではなく、「友達に話したい、聞いてほしい、聞きたい」、という子ども対子どもが言語活動の目指すところである。
- ・ワークシートの絵を描くところでも子どもたちは言語活動をしている。言語活動は「話し合う」場面だけではないことが分かる。

【実践力を育むための体験活動について】

- ・現代の子どもたちは、何かを作らなくても簡単に買える環境にある。また、子どもたち自身が忙しく、家庭で実践させてもらえないという声も聞く。授業をするにあたり、体験が不足している子どもたち、漠然と知っている子どもたちなど体験的にばらつきが大きいので、家庭科の用語を使ってしっかりと知識を身に付けることが大切である。
- ・体験活動を効果的に行うには、子どもたちに「なんとかしたい」「どうにかしたい」という気持ちにさせる手立てが必要。
- ・無理やり不快な状況を作ることで、実践したい気持ちにさせる方法もある。

まとめ概要

- ・提案者は日頃から言語活動を気にかけて授業を行っている。子どもたちへの声かけや声を拾うことが自然にできている。
- ・ワークシートがすばらしい。＜1 予想＞では、子どもたちが主体的に取り組むことができる。＜2 実験してみよう＞は、記入しやすい形になっている。＜3 着方ポイント＞では、自由に書けるスペースの確保がされていて、知っている言葉で自由に言語活動をすることができる。＜4 コーディネート＞では、最後に自分に返ってくるようになっている。
- ・目の前で起こっている事実をワークシートに書いているうちに考えが深まっていくものであった。自分たちの言葉でまとめ、言語活動をすることによって、プロセスや根拠を示していける。
- ・ワークシートは、2時間分を1枚で見渡せるように工夫した。
- ・実験によって価値づけされたものが自分の中に入り、家庭の中で実践的な態度に結びついていった。
- ・実感を持って実践したからこそ、言葉として表現できることがあった。
- ・専科ではなく担任として家庭科を教えるよさを知った。担任こそ裏側を見取れるよさがある。
- ・子どもたちが力を発揮できる場が家庭である。
- ・気働きができる子を育てたい。いろいろな子どもの裏側を見取った上で子どもたちと関わっていくことが大切である。
- ・学習指導要領解説 (p. 61) について解説。言語活動はお互いの意思疎通のためだけでなく、自己肯定感や感性が育てられたり情緒が安定したり、社会性が育つために必要である。
- ・言語活動そのものをすることが目的ではない。目標を達成させるためにどこで言語活動を行うか、計画を立てることが大切である。